

# 育苗|田植|秋の収穫に向け第一歩

天候に振り回されない技術を確立し、稲刈りまで乗り切ろう！

## 生産者通信

NPO法人  
米ニケーションセンター  
定価 100円(送料込)



コシアブラ

一雨毎に里山の若葉がその色を増していま  
す。総ての生命が最も  
輝きを放つ季節です。  
私の大好きな山菜の季  
節でもあります。コゴ  
ミとモミジガサだけは  
毎年1〜2回、春作業  
の合間に近くの山に採  
りに出かけますが、タ  
ラの芽、コシアブラ、  
ワラビそして少々のゼ  
ンマイは家の地続きの  
山で家族が楽しめる程



モミジガサ

度のもは採取するこ  
とができ、里山の暮ら  
しを堪能しています。  
県内の田植も最盛期  
を迎えています。農家  
にとつて最も喜びの時  
期は収穫期なんではし  
うが、農家は昔から田  
植には特別な思い入れ  
があつたようで、今で  
はすっかり機械化され  
ていますが、今でも何  
となく華やいだ気持ち  
を引きずっているのは  
私だけでしょうか。  
昨年の高温登熟で種  
籾の休眠が深く、浸種  
の際には注意するよう  
にとの事前指導が行わ  
れていましたが、発芽  
揃いなどはいかがだつ

たでしょうか。身近な  
ところで発芽障害の情  
報を聞いていませんの  
で指導が徹底され、成  
果が出たのかもしれない  
せん。私も浸種のはじ  
め2日間は15℃に加温  
し、浸種時間を長めに  
とつたお蔭かどうか発  
芽にはまったく問題が  
ありませんでした。  
むしろ、天候が安定  
せず異常な高温日と  
低温日が繰り返される  
など、育苗ハウスの温  
度管理に苦労されたの  
ではないでしょうか。  
30年位も3千枚のJA  
の育苗受託をしていま  
すが、いままではコシ  
ヒカリだけでした。今  
年は山地の残雪が多く  
てハウスの準備が間に  
合わなかったのではし  
う、急遽こしいぶきの  
苗を引き受けることに  
なつてしまいました。  
こしいぶきの苗は伸び  
が悪いことを承知して  
いましめたので夜間温  
度を高め、散水も多め  
に管理していたのです  
が、出荷1週間前にな  
つても2葉齢の7〜8

センチしかなく、伸長がピ  
タツと止まつてしまひ  
ました。発芽苗が入つ  
たのが4月の14日、出  
荷は5月の7日に決ま  
つていますから、その  
間に2・5葉12センチに  
上げなければならませ  
ん。根の張りだけは良  
すぎるほどになつてい  
ましたが、「おしかり」  
を受ける覚悟だけはし  
ていました。皮肉なこ  
とに隣の自家用のハウ  
ス内プール育苗の苗は  
極めて順調に生育して  
いました。ところが14  
日の朝、苗を見て自分  
の目を疑つてしまいま  
した。ほぼ11センチ伸  
びているではありませ  
んか。苗丈が一晩で2  
センチ以上伸びてくれ  
たことになりました。そ  
れまでも夜間温度を高  
く保つように管理して  
いたのですが、夜間の気  
温そのものが低かつた  
のでしょう。「良い苗  
になりました」とお褒  
めをいただきましたが、  
受託苗の出荷が終われ  
ば私の春作業の半分は  
終わつたも同然なので

す。

\*\*\*\*\*

さて、有機について  
は今年も新しい試みを  
することにしました。  
田植時期を5月末まで  
遅らせることにしたこ  
とです。理由は「草と  
の闘いの期間を短くする」  
ためです。本田での稲  
の生育期間が短くなれば、  
それだけ雑草処理期間  
も短くなるからです。

播種が4月の19日、  
播種したものを無加温  
で屋外プール育苗します。  
昨年育苗期間中低温  
と雨が続き、途中でハ  
ウス内に移動して積み  
重ね発芽させましたが、  
今年は育苗箱の下に1  
センチほどの厚みの板を敷  
いて、箱底が雨水に浸  
からないように工夫し  
てみました。予想どおり、  
10日目に揃つて発芽し  
て順調に生育しています。  
新潟県農林水産部は  
3月に「コシヒカリB  
Lにおける有機栽培の  
手引き」を作成しました。

【裏面に続く】

「除草はチェーンで4〜5回実施する」と書かれています。何とか「2〜3回」で対応できないかと虫の良いことを考えています。

週間天気予報などは実质的中するようになりましたが、中長期の天気予測は中々難しいようです。しかも最近では「異常気象」が当たり前と思えるような天候が続いています。いかなる天候にも対応できるような稲作技術が求められていくのでしょうか、口で言うほど簡単なものではありません。そんな中でも、育苗・田植は米作りの第一歩ですから理想を追い求めて頑張りたいものです。

### 《内山常蔵記》

## Agri-s の



## 農機メンテの部屋

Vol.17

東日本大震災から約二ヶ月が経過しようとしています。また、津波による被災地の復旧が始まろうとしています。が、農地関係の復旧は、目途が立たない所がかなりあるようです。

\*\*\*\*\*  
一番がいちばん

県内では例年のごとく、何事も一番と早くも柏崎地区で4月22日に越路早生の移植作業が始まり、5月の連休で半分程度が終わりそうで、残雪の多い地域では6月上旬までかかるので

はないかの予想です。

### 最近の田植機

近年、徐々に増加傾向にある、作業受託組合等を除けば農業者の高齢化、作業者の休日作業化により、一作業同時作業機型の省力タイプは田植機が人気です。これは移植作業時における、田植機が転回した圃場枕地の荒れた表面をローターで均しながら移植作業（メーカにより、さらに枕時においてハンドル操作のみで植付機能も自動と言う物もあり。）を行ない、さらに施肥、除草剤散布及び殺虫剤散布も同時作業できるというものです。

さらにアタッチメントの付替えて直播、除草、排水対策の溝切作業等が可能。ただ価格がアタッチメントフル装備で500万前後が、高いと見るか安いと見るかは各自の判断となりますが。

製造責任

田植作業中、車輪が動かなくなつたとの連絡で現場急行。現場を見てがく然。車体フレームと後輪車軸フレームが分離して、後輪が植付部のフレームに引つかかる状態等と、初めての経験。問題は農道の近くならクレーンで引き上げと考えるも、現車は農道から100m先で、深さ50cmという状態。考えた末、建機のウンボで圃場内に入り、田植機を吊り上げ農道まで100m移動し、トラックに乗せ、農家さんと相談。10年前の機械のため、修理を諦め機械の入替えとなりました。車業界なら絶対リコールになる状態でも農機業界はダメみたいですよ。

環境保全農業への支援  
本年4月から施行された環境保全型農業直接支援対策について、10万／8千円の補助金交付の条件が、まず、エコファーマーの取得（有機栽培者は不必要）、と

5割以上削減した栽培方法を組み合わせた取り組みを行う事。  
この環境保全型農業支援対策は6月末までの申請が必要との事です。該当する方は忘れずに申請されてください。（エコファーマーの申請は奇数月が締切です。）

災害に伴う原発の問題  
自然災害に伴った原発のあまりに高いリスクにノーと声を上げようと、都内数か所でデモが何回か行われました。（4月20日現在）デモ参加団体に農産物生産団体がかなりあったようでした。（私の処にも参加要請がありました。）

案内文の中で、先日の放射能飛散に伴う農業被害について、作付け制限値について、ある流通団体の方が異を唱えられていました。国、県の指示で、作付け制限地域の汚染された農地は放射能の数値が下がるまで作付け制限、もしくは作土の入替をするというが汚染され

た広大な耕地面積からすれば時間的にも不可能ではないかと。当然、工事期間中の作付けは出来ない。年数が掛れば掛かるほど農地は荒れるし、農業者の年齢は高齢になる。果たしてそれで後継者は残るのだろうか。逆に考えて汚染された農地に吸着率の高い、ほうれん草をはじめ、米なども作付けし、バイオ燃料に供給したらどうだろうかとの提案をされていました。

これには、賛否両論があろうかと思いますが、考えさせられる問題だと思います。

《Agri-S 記》

